

令和 7 年 8 月 6 日

東員町議会

議長 大谷 勝治 様

東員町議会 議員 三宅 耕三

研修（視察）報告書〔予算決算常任委員会〕

研修期間	令和7年8月6日（水）
研修（視察）先	1, いなべ市議会
目的（テーマ等）	1, 議会が実施する行政事務事業評価について
参加議員名 (複数の場合)	◎ 議席順 1、伊藤まり 2、山田由紀子 3、大崎昭一 4、広田久男 5、伊藤治雄 6、片松雅弘 7、大谷勝治 8、三林 浩 9、山崎まゆみ 10、島田正彦 11、水谷喜和 12、川瀬孝代 13、三宅耕三 ※南部 豊（議長）
資料添付の有無	有 ・ (無)

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

いなべ市議会における事務事業評価の取り組み

令和7年8月6日、いなべ市議会において実施されている事務事業評価の取り組みについて研修を受けた。近年、議会の役割は単なる追認機関から、政策提言や執行部のチェック機能を担う「政策形成機関」へと進化しつつあり、その中で議会が主体的に行政の事務事業を点検・評価する仕組みは極めて重要であるとされている。今回の研修では、いなべ市議会がどのように事務事業評価を行い、行政との関係を築いているのかを具体的に学ぶことができ、大変有意義であった。

いなべ市議会では、事務事業評価にあたり、まず各会派から行政施策に対する課題や改善点などを提案として持ち寄る。その後、全議員による「議員間討議」を通じて、議会として重点的に評価すべき事業を絞り込む。この討議は、単なる意見の表明にとどまらず、他会派の考えを尊重しながら議論を深め、議会全体としての方向性を見出すための重要なプロセスとなっている。

評価対象が定まった後は、常任委員会において具体的な協議・検討を行い、評価結果や改善提案をまとめていく。最終的には、その内容を行政側に正式に提出し、翌年度の予算や施策に反映されるよう働きかけるとともに、改善可能な点については速やかな対応を求める。このように、議会による評価結果が「提出して終わり」ではなく、行政の改善行動につながるような体制が整備されている点は、評価制度の実効性を高めるうえで非常に重要であると感じた。